



1995年11月 1日(水)～11月29日(水)

山王久保遺跡<市内岡崎>

今月の寄贈品コーナー

『近年の発掘調査の成果』

11月1日(水)～29日(水)

■平成2年～6年にかけて約150カ所の遺跡の調査が市内で行われ、平塚の歴史を探る上で大変貴重な資料が発見されています。今回はその成果の一部を紹介します。

■展示する資料は縄文時代の山王久保遺跡、弥生時代の赤坂遺跡・田村館跡、古墳時代の根坂間横穴墓群・城山横穴墓群、奈良・平安時代の稲荷前A遺跡・坪之内遺跡・稲荷前B遺跡・出縄砦の9遺跡です。

■縄文時代の山王久保遺跡では中期の住居址から多くの土器や石器が出土しました。傾斜地に立地していることに注目すべきかと思えます。また隣接する上ノ入B遺跡との関連が窺い知ることができます。

■弥生時代の赤坂遺跡では後期の東海地方の土器が出土しています。この時期にかなりの「人」や「もの」の交流があったことを語っています。田村館遺跡では中期の土器が土坑(方形周溝墓?)から一括出土しています。この時期の土器は自然堤防から2例目の出土となり、弥生集落の展開を知る上で貴重な資料と言えます。

■古墳時代後期に爆発的に造営された横穴墓は市内に多

く存在しますが、城山横穴墓では相模川流域では最古と考えられるものが発見され、直刀・馬具・装身具が出土しました。根坂間横穴墓は昭和8年に発見され、学史に残る貴重な資料が発見されましたが、今回の調査では横穴墓の前庭部が良好に残り、そこから大甕や鉄鎌が出土し、前庭部での墓前祭が明らかになりました。

■奈良・平安時代の出縄砦では傾斜地でありながら、住居址が検出し、特に官吏が身に付けた石帯が出土しています。石帯の性格を検討する段階かと思えます。相模国府域の・稲荷前A・稲荷前B・坪ノ内遺跡から新たな資料が発見されています。特に、稲荷前A遺跡出土の墨書土器「旧竝一」の「竝」(くき)は相模国の特産物で国の厨機関が製造したものと考えられています。またこの土器の年代が8世紀中葉であることから、初期国府所在地を巡る論争に大きな波紋を投げかけた資料です。

■近年の調査から、古代の平塚市の様子が少しずつ明らかになってきました。この機会に是非ご来館され、思いを古代に馳せていただきたいと思います。